

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	生活困窮者の相談窓口の設置や矯正施設退所者の受け入れなど、積極的に地域貢献に取り組んでいる
	内容	生活困窮者のための生活相談所を開設、通所事業、訪問事業、居宅生活訓練事業、一時入所事業の実施など積極的な地域ニーズに沿った活動を行っている。また、ボランティア・実習生の積極的な受け入れ、地域業者、福祉事務所等の見学の受け入れのほか、訓練棟の開放、生活相談所の開設、各種備品の貸し出しなど施設機能を最大限地域に提供するなど積極的に取り組んでいる。地域にある施設として地域貢献を果たそうと高い志を持って、事業運営に前向きに取り組んでいる姿勢が感じられる。
2	タイトル	利用者の自立支援に向け、通所・訪問事業、居宅生活訓練事業、一時入所事業等を実施している
	内容	利用者の地域生活移行に取り組んでいる。当施設には独自事業である通所・訪問事業(スマイル倶楽部)と居宅生活訓練事業、一時入所事業がある。居宅生活訓練事業では利用者本人の希望を基に個別支援計画を立てて単身生活の訓練をする。敷地内の訓練棟にある生活実習室(訓練室)と近隣にある民間の借り上げアパート1室を利用することができる。それぞれの利用者のニーズに応じて自立生活に必要な様々な情報を分かりやすく提供することができるよう、スマイル倶楽部と連携を取りながら、アパート見学会なども実施している。
3	タイトル	利用者の安全確保やその向上のために意識を高くしてリスクマネジメントに取り組んでいる
	内容	利用者の安全確保やその向上への取り組みの1つとして、リスクマネジメント実施要項に基づきリスクマネジメント委員会を設置している。ヒヤリハットや事故に関する各報告書は、リスクマネジメント委員会において整理・分析され、現場職員が具体的行動に移りやすいようマニュアルなどの見直しの参考にしている。さらにより注意が必要な利用者を職員が意識しやすいよう工夫して活用する。事故・ヒヤリハット報告書の提出件数の多さからもリスクマネジメントに対する意識の高さが推察できる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	施設の中長期計画を作成して、職員へ示していくことが期待される
	内容	理念・基本方針の実現に向けた中長期計画の策定は、法人全体で検討・作成を行っている。職員アンケートでは、中長期計画に関する結果は、他の項目より低い結果となっている。施設としても建物・設備の老朽化対応、リーダー層の育成、利用者の高齢化対策とリスクマネジメント、そのほか地域移行等などの課題について中期計画を作成して、職員へ示していくことが期待される。
2	タイトル	利用者の高齢化による支援を必要とする利用者の増加への対応
	内容	利用者の高齢化によって、障害の重度化、体力・生活能力の低下、認知の低下などが進んでいる。入浴・排泄・整容等で介助を必要とする利用者が次第に増え、洗濯・清掃等の生活上の支援も必要性が高まっている。健康面では通院・服薬、食事の管理が難しくなり、通院同行・服薬支援が増えている。また、活動に参加せず居室で過ごし孤立化の恐れがあるケースもあり、職員の関わりが益々重要になっている。リーダー層の育成、各職員の能力向上と支援体制・方法の見直しなどを組織として取り組むことが望まれている。
3	タイトル	サービスの提供者と受ける者の立場を守った関係作りを再考することが期待される
	内容	利用者の支援において虐待や不適切な言動が行われることのないよう「村山苑倫理綱領」を定めたほか、プライバシーや羞恥心への配慮、接遇全般に関しては、利用者支援マニュアルに詳細を示している。しかし、一部に利用者との関係作りにおいて、「慣れ」が生じての軽口、友人に話しているような言葉遣いや指導的・教育的な言葉など、使用している言葉がサービスの提供者として好ましくないものも垣間見える。今後、サービスの提供者と受ける者の立場を守った「話しやすく親しみやすい」関係作りを再考することが期待される。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	循環型セーフティネット施設を目指し、その第一歩として地域の生活困窮者に向けた一時保護事業に積極的に取り組んでいる
	内容	昨年度成立した「生活困窮者自立支援法」に則り、全国救護施設協議会では、救護施設として地域の生活困窮者への支援を充実させていくことを社会的役割として位置付け、さつき荘においても、地域の生活困窮者向けに緊急時の一時入所事業を始めている。男女一部屋ずつ用意し、緊急一時入所マニュアルを作成するなど受け入れ体制を整え、関係機関への積極的な周知により、利用率も着々と上がってきている。循環型セーフティネット施設としての機能を果たすための第一歩でもあり、地域支援に対する職員の意識向上につながっている。
2	タイトル	利用者の意向を重層的に把握するしくみを整備し、自らが主体的に生活を送ることの意義を確認できるように取り組んでいる
	内容	基本方針の一つである「利用者が主体であることを認識し、意思の尊重に努める」ことを実践するために、定例会、フロアミーティング、給食ミーティング、作業懇談会、食事懇談会など、日頃より利用者が意見を言える機会を数多く用意し、把握した意見を支援に反映させている。さらに、利用者と職員が共に施設運営について考えるために、事業計画策定に際しては、利用者代表が会議に参加するとともに、運営委員、行事委員、食事委員など、利用者自身が役割を担うことで、自らが主体的に生活を送ることの意義を確認できるように取り組んでいる。
3	タイトル	一人ひとりの利用者について、多方面からの視点により理解を深めたうえで個別支援計画の作成にあたっている
	内容	個別支援計画の作成にあたっての手順は「個別支援計画作成マニュアル」で定め、利用者の希望や要望、前回の支援計画のまとめと再アセスメントにより、利用者個々の生活状況を見据えた目標設定や課題の抽出に努めている。毎月のケース会議には施設長、生活相談員、援助担当職員、看護師、栄養士等が出席し、多方面からの視点により時間をかけて検討を深めたうえで個別支援計画を作成している。また、支援計画に反映されなかった利用者の意向についても対応を定めるなど、利用者の思いを尊重する支援がなされている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	循環型セーフティネット施設として機能させていくために、職員一丸となり地域との関係性を深めていくことが求められている
	内容	循環型セーフティネット施設として機能させていくためには、施設の地域化が必要であるとの考えの下、さつき荘では、地域との更なる連携を模索している。町内の福祉施設連絡会をはじめ、自治会や町内団体との交流、福祉事務所、社会福祉協議会など関係機関との連携など、今までよりさらに関係性を深めていくことが重要となっており、相談員のみではなく、支援員も含め全員が役割を担っていくことが必要となっている。近隣の学校、商店街、高齢・障害など他種別の施設などとの地域ネットワークづくりに向けた取り組みに期待したい。
2	タイトル	利用者が地域で生活をおくることができるよう、居宅生活訓練事業の更なる充実期待したい
	内容	利用者は、さまざまな理由により地域での生活が困難になり施設への入所に至っているが、再度、地域で自立した生活を送ることができるよう、自立に向けた支援を徐々に充実させてきている。例えば、居宅生活訓練事業では、希望する利用者の個別訓練プログラムを作成し、洗濯や調理、金銭管理など、自分で出来ることを増やし、また、アパートの1階を借り上げ、一人で生活をする練習をおこなっている。支援は緒についたところであり、今後、実績を重ねる中で、これらの取り組みを自立支援のためのプログラムとして体系化していくことに期待したい。
3	タイトル	個別支援計画について利用者の意識を高めていくための工夫に期待したい
	内容	個別支援計画については利用者の要望の確認や再アセスメントを基にしたケース会議が毎月開かれており、時間をかけて個々の利用者支援への検討がなされている。このことは利用者サービスの重点課題として位置づけられて事業計画に組み込み取り組んでいるが、利用者アンケートや聞き取り調査では個別支援計画についての利用者の意識が高いとはいえない現状がうかがえる。施設がめざす利用者支援の実現に向けた個別支援計画を利用者自身が理解し、意識を高めていくための工夫や取り組みに期待したい。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	入居開始時、利用者が施設に早く慣れ落ち着いて生活できるよう取り組んでいます
	内容	利用者が慣れた環境から施設に入所して不安な思いやストレスを早く無くし、落ち着いて安全に暮らせるよう様々な工夫を行い、職員は暖かな心遣いや声掛けを行っています。入所時に利用者の生活歴や家庭環境、医療情報を把握し、利用者や家族の要望等を考慮して穏やかに暮らせるよう支援しています。趣味の継続のためクラブ活動を紹介し、生き甲斐を持って楽しく生活できるよう心掛けています。また、事故防止のため利用者の動線の確認をし、ベッド位置の調整を行い安全に配慮しています。
2	タイトル	家族会とボランティアの協力により、利用者は地域社会への繋がりを広げています
	内容	利用者の生活の幅を広げるため、家族会や多くのボランティアの協力を得て、各行事の開催だけでなく外出による地域住民との交流が盛んに行われています。福祉協力員は外出時のボランティアを行っており、楽器演奏や学生との交流、日常生活支援のボランティアもあります。また、積極的な家族会の関わりは利用者の地域社会との繋がりに大きな力となっています。さらに、施設見学会、会議室の貸出、ロビー活用の計画も含め地域住民が施設への理解を深め、利用者が地域社会との繋がりを広げる機会となっています。
3	タイトル	地域の関係機関と連携し、他施設相互訪問などを通して職員の支援育成を行っています
	内容	地区高齢者福祉施設連絡会は19施設が加盟し、施設長が出席しています。2ヶ月に1回事務局会議が行われて情報交換をしています。また、福祉厚生面で共同で補助金を出し合い、職員参加施設間ボーリング大会を開催して、親睦を図っています。この連絡会の協働作業の一つとして、他施設相互訪問の支援研修を行っており、職員を順次、他施設に派遣及び受け入れによる3日間の実務研修を行い、お互いの支援状況を学び合う作業を行う事で、職員の支援育成手段にしています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	経営層と職員の社内におけるコミュニケーションの円滑化に期待します
	内容	職員調査結果から職員の経営層に対する不満が多く見られ、経営層と職員のコミュニケーション不足が窺えます。特に、例年にない重点目標を設定した場合は、充分なる説明と要望を聞く姿勢が求められています。情報の内容と種類を選別し、“誰に・何を・どの程度まで”伝えるか、など理解すべき点を明確にして、些細な話題であっても気兼ねなく話せる環境作りが望まれます。企業風土は多種多様であり、効果的な改善策は1つとも限らず相応しい方法を模索し、随時改善することに期待します。
2	タイトル	職員の育成につなげる仕組みである研修計画の取り組みに期待します
	内容	職員の階層や職種別に必要となる、資格や能力を示した施設の人材育成計画と、これに則した職員一人ひとりの意向に基づく、個人別の研修計画を期待します。研修計画は具体的な技術水準、専門知識、専門資格の取得など、職員の能力向上に向けた具体的取り組みを明確にし、個人目標管理の「成長目標」としての取り組みに期待されます。キャリアパスの考え方を取り入れて次世代リーダーに必要な要件(能力・資質・行動)を明確にして、そのための教育・研修制度を体系化し、評価制度と研修制度を有機的に連携させる事で育成に繋がることに期待します。
3	タイトル	認知症の理解が深まる取り組みに期待します
	内容	施設では内部、外部研修に参加し、学び・実践する職場環境を目指し、利用者に質の高いサービス提供を行っています。施設内の利用者だけでなく、地域への貢献を意識した運営を心掛け、地域が抱える高齢者問題に取り組んでいきたいと考えています。今後、施設・地域において認知症高齢者の急増が予想されますが、26年度は認知症研修への参加ができません認知症への取り組み不足が窺えます。施設利用者はもとより、地域住民に貢献し、認知症になっても地域で暮らし続けることができるよう、認知症の知識を得るための取り組みに期待します。

No.		特に良いと思う点
1	タイトル	広いスペースを有効に活用して利用者の身体機能維持に努めています
	内容	在宅生活の継続を留意し利用者へ個別サービスの提供を行い、楽しんで帰ってもらえるよう心掛け、利用者の心身の状況に配慮しながら、身体を動かすことを中心にしたメニューを積極的に取り入れています。事業所は特別養護老人ホーム内に設置されており、広いスペースが確保されています。食事スペースとは別に体操やゲームを行うことができるため、利用者は他利用者の動きを気にすることなく身体を動かし伸び伸びと楽しんでます。
2	タイトル	事業所の様子が良く分かる広報誌を毎月発行しています
	内容	A4判の広報誌を発行していますが、25年度までは年4回だった発行回数を26年度は毎月の発行に変更しました。この広報誌には、毎月の行事や、職員の自己紹介、食事など盛りだくさんの内容が写真入りで紹介されており、事業所での活動の様子が一目で分かるようになっています。また、配布先は利用者、家族の他、地域の居宅介護支援事業所、地域包括支援センター等ですが、利用者、家族のみならず、ケアマネジャー等からも評価を受け、楽しみにしており、利用者、家族並びに関係機関との連携の強化に繋がっています。
3	タイトル	併設施設の調理に事業所職員を参加させる取り組みを始めました
	内容	食事は併設の特別養護老人ホームと同じものが提供されています。事業所においても職員による検食を行い、管理栄養士と調理師が毎日食事中に巡回し、利用者の嗜好の聞き取りや摂取状況の確認をしています。より食べやすい食事となるよう、利用者の意見は厨房にも伝えていますが、さらに利用者の意向を反映できるよう、職員会議に調理員が参加し、要望を直接伝えています。
No.		さらなる改善が望まれる点
1	タイトル	利用者への質の高いサービス提供を行い、通所介護事業の発展に期待します
	内容	事業所は3市の境に立地しており、いずれの市の中心部からも離れているため、居宅介護支援事業所からの紹介を受けにくく利用者が減少傾向にありましたが、センター長が専任となり営業日の見直しを行い、身体を動かすことを豊富にメニューに取り入れて利用者の増加に取り組んでいます。今後、積極的に営業活動を行い利用者が増加し、在宅生活継続のための質の高いサービス提供が行われるよう職員の意識の向上に期待します。
2	タイトル	利用者向けのパンフレットを更新することが望まれます
	内容	パンフレットは数年前から内容が更新されていません。このため、アクティビティの内容が以前の手芸等を中心としたものから、現在は事業所の広いスペースを利用したゲームや体操が中心となっていることや、サービス提供時間が利用者の要望により24年度から7～9時間変わったこと、祝祭日も営業するようになったこと、年末年始の休みを変更したことが、新たに利用を希望する潜在的利用者、家族にはパンフレットから伝わりません。早急に必要情報を網羅すべく、パンフレットを現状を反映した内容に更新することが期待されます。
3	タイトル	事業所独自の実践を、広く外部へ伝える事を期待します
	内容	事業所が駅より離れており、積極的な営業もしなかつた為、25年度の前期には利用者数の落ち込みが見られましたが、法人全体の人事異動が行われ、事業所間との調整や連携もより強く行われるようになりました。また、事業所独自の改革として、利用者の嗜好の聞き取りをはじめ職員会議に調理員が参加し、意向を直接伝えています。PTIによる生活に結びついた訓練も、利用者の増加やADL(日常生活動作)の向上等、結果が出てきています。こうした実践や結果を具体的に外部へ広く伝える事も必要と考えます。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	個別対応し、利用者が安心して暮らせるよう取り組んでいます
	内容	職員3名で運営している小規模な事業所ではありますが、密な連携を取りやすく様々な場面において報告、相談を行い必要な支援を行っています。利用者や家族の状況により随時、利用者の自宅を訪問しています。老老介護、認知症独居の利用者については特に配慮し、何度も自宅を訪問し丁寧な対応を心掛けています。認知症利用者の場合、体調が悪化しても正確に訴えを伝えられないため一緒に通院等行うこともあり、状況を説明し問題解決に努めています。
2	タイトル	利用者や家族に誠心誠意丁寧な対応を心掛け、利用者・家族から信頼を得ています
	内容	介護支援専門員は、利用者や家族の気持ちを大切にされた支援を行っています。介護保険制度や居宅サービス計画について等、複雑で分かりにくい事柄についても、できる限り利用者自身が理解した上でサービスを利用して欲しいという想いから、ゆつくりと分かり易く丁寧に説明を行い、それぞれの利用者に合わせて理解してもらえよう工夫しています。また利用者や家族の話にもよく耳を傾け、話しやすい雰囲気を作る事を心掛け、本音を引き出して支援に活かす努力をしています。利用者調査の結果からも、利用者からの信頼を得ている様子が窺えます。
3	タイトル	併設施設との協力をはじめ、法人の他事業所との連携を密にし利用者支援に努めています
	内容	併設施設のデイサービスやショートステイの利用者の為に立ち上げられた事業所である為、積極的な利用者への情報発信は行っていませんでしたが、今回の法人全体の人事異動により、利用者やその家族の希望する支援をより多く行えるよう、併設施設や他事業所との連携を強化する体制を作り出しています。デイサービス事業を兼務をしている介護支援専門員もおり、利用者の要望を聞き出し易い利点を活用し、支援計画に反映しています。また、少数職員の体制は毎日の意見交換も可能にし、利用者の希望する支援により近づけると考えています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	地域に情報を発信して多くの人に利用してもらえる事業展開に期待します
	内容	法人内のデイサービスに通ってくる利用者を対象として立ち上げられた事業所で、地域への情報発信をあまり行っていません。法人内に特養、ショートステイ、デイサービス等があり連絡や連携が取りやすく、利用者の地域での在宅生活継続のため、事業所の持つ役割は非常に大きいと思われます。より多くの人に利用してもらえるよう関係機関との連携を図り、事業の展開に向けた取り組みに期待します。
2	タイトル	担当の介護支援専門員に対する利用者の希望に、対応出来る事が望めます
	内容	利用者の個性は性別を含め性格や年齢、家族状況等も一人ひとり異なり、利用者によっては支援を担当する介護支援専門員と相性が合わない場合の変更希望や、男性・女性等を希望する場合があります。当事業所は男性の専任1名、女性の兼務1名となっており、小規模で丁寧な対応により利用者の信頼を得ていますが、担当する介護支援専門員に対する利用者の希望に沿う事は困難な状況と言えます。今後の規模拡大に伴い、専任の職員を増やす等の対応を行い、利用者の希望に柔軟に対応できる事が期待されます。
3	タイトル	利用者情報の運用ルールや守秘義務について、なお一層の配慮を期待します
	内容	同一法人においてデイサービスなどの在宅サービスを行っています。同じ利用者が法人内のサービスを利用することも多いことから、出来るだけ多くの情報共有をしています。記録はデイサービス内のキャビネットに保管しており、現状は特に問題となったケースはないものの、利用者増加に伴い個人情報の扱い量も増加する事が予想されます。不用意に想定外の範囲外に情報が流れることの無いよう、また業務として伝えた情報を職員同士がどのように扱うか、担当者変更があった今、事業所としての情報運用ルールの再確認も必要と思われます。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	『働く喜びをすべての人に』のスローガンは事業所に根付いており、利用者が仕事を通して自己実現が図れるよう支援している
	内容	利用者支援における当事業所の特徴は、作業を「日中活動」として捉えるのではなく、利用者が「仕事」として意識化できるように取り組んでいることである。元々は身体に障害がある人たちが対象であったが、精神障害を有するなど、障害が多様化している現状の中、個々の利用者の障害特性に配慮しながら作業内容と作業環境を整えることで、利用者の能力を引き出し、また、働く意欲を引き出している。事業方針である『働く喜びをすべての人に』のスローガンは、事業所に根付いており、利用者が仕事を通して自己実現が図れるよう支援している。
2	タイトル	多様な訓練や実践の積み重ねが就労移行支援部門の就職者の多さに繋がっている
	内容	就労移行部門では通所することから訓練が始まるという位置づけで基礎訓練から始まり、事業所内や法人内他事業所でのさまざまな訓練や生産活動をし、実習へとステップアップしていく訓練がなされている。企業実習のみならず市内での各イベントで役割りを担う訓練もあり、多くの経験を蓄積していくなかで就労実績が伸びており、そのことが就労支援の関係機関や企業からの信頼を得ることに繋がっている。利用者定員15名に対し、24年度は9名、25年度は10名の就職が実現していることが、移行支援の成果となって表れている。
3	タイトル	就労継続支援B型部門では障害や利用者の特性に応じてそれぞれが力を発揮できる作業の場を提供している
	内容	平成21年度半ばから通所型事業所となり、従来の身体障害に加えて知的障害や精神障害の利用者が年々増加してきた。このことよってそれまでの時計メーカーから受注の精密な作業以外にも障害や個々に適した作業を提供する必要性が求められた。新たな受注先確保に力を入れた結果、ダイレクトメール関連の業務や梱包、包装など、また、障害特性に応じて個人でできる作業やベルトコンベアーを使う共同作業など、身体のみならず知的あるいは精神障害を有するそれぞれの利用者が力を発揮できる作業が提供されている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	個々の利用者の障害特性に合わせた専門的な支援スキルの向上に期待したい
	内容	元々は身体に障害を負った人たちに仕事を提供する事業所であったが、自立支援法の導入をきっかけに知的や精神などにも障害をもつ人たちの受け入れも増えてきており、仕事環境を整えること以外にも、さまざまな利用者ニーズが増えている現状がある。障害特性を理解した上で、障害の見立て、拘りの見極めが的確にできるようになることが重要であり、そのことが利用者の人権擁護にもつながる。個々の利用者の障害特性に合わせた支援スキルについては更なる向上が必要となっており、職員の育成計画に盛り込み計画的に実施していくことに期待したい。
2	タイトル	多様化する利用者のニーズに対応する新たな作業種目の導入など検討していくことに期待したい
	内容	利用者の障害の多様化や高齢化に伴い、特に就労継続B型事業では、利用者の仕事に対する意識であったり、集中力や体力的な課題が生じてきている。高い工賃は、当事業所の特徴であり、また利用者、職員のプライドとなっているところであるが、利用者の中には居場所としてのニーズをもっている人もおり、そのような利用者が自信を失わずに取り組める新規メニューの導入も必要となっている。受注作業を中心としているが、今後は自主生産品についても検討を進めていくことが求められている。
3	タイトル	「ほうれんそう」の徹底を通して、職員間のコミュニケーションが活発化していくことに期待したい
	内容	常勤職員と非常勤職員、B型と移行支援、各フロアなど、職員間の情報共有が課題となっており、まず取り組むべきこととして「ほうれんそう(報告・連絡・相談)」の徹底を掲げ、会議体を見直すなどの改革を始めている。非常勤も参加して実施する月2回の連絡会および朝と夕方のミーティング、経営層が事業運営にかかわる重要事項を話し合う事業検討会議など新たに設置し、職員間のコミュニケーションの機会を増やすことを始めており、この取り組みが功を奏することに期待したい。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	多様な行事の取り組みがあり、子ども達の生活にメリハリがあります
	内容	園では、季節毎に行事を行い、幼児は行事を目標に話し合い、協力するクラス作りに取り組んでいます。季節ごとの行事は、由来を話し製作に繋げたり、集会をし日本文化を伝承しています。また、4・5歳児のお泊り保育や5歳児中心の豊年太鼓は、園の伝統行事として毎年実施し、活動の様子は写真とコメントをつけ、玄関の掲示やクラス前の廊下に掲示し保護者に情報提供しています。豊年太鼓は夏まつりのオープニングや卒園式で披露しており、年長児の自覚と、年下の子はあこがれの気持ちが育ち相乗効果があります。
2	タイトル	園児数は多いですが、広い園庭や多目的の部屋等、保育環境に恵まれています
	内容	当園は平成13年に乳児・幼児園が統合し、園児定員195名と大型園の2階建ての独立園舎です。乳児・3歳児クラスは保育室から園庭に出られ、広い園庭には大きな築き山があり、ブランコ・滑り台・登り棒・雲梯等の固定遊具があります。運動会も園庭で実施しています。また、0歳児は2クラス1歳児は3クラス、2・3歳児は2クラスと少人数で保育室も分かれていますので、ゆったりとした雰囲気の中で過ごしています。4・5歳児の保育室は2階にあります。1・2階に多目的の部屋があり、食事や製作時に使用と恵まれた環境で保育が営まれています。
3	タイトル	園の目指す方向性を共有する機会を増やし、保護者とも「共育て」の実践につなげています
	内容	事業計画を職員会議で意見を集約しながら作成しているほか、保育士自己チェック票という31項目のポイントを確認する自己評価の機会や、職員と園長との面談の機会も設定されています。非常勤職員の人数も多いですが、事業計画などを配布して周知に努めています。保護者に対しても方針や年度の計画等について周知を図っているほか、年に1度、「保護者と職員の会」という行事を開催して、園が掲げる「共育て」の理念を実践すべく、保護者向けの研修会や保育参観などを実施しています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	虐待に対する捉え方、羞恥心に配慮した環境設定など、日常の保育場面にあてはめて職員間で検証、検討することが期待されます
	内容	子ども自身が羞恥心を生活を通して学んでいくことができるよう、着替えの順番などを伝えています。着替えの場所がテラスとなっており、目隠しが完全ではないことから外部から見えてしまう危険性があります。また、子どもに対する声かけや言葉遣い、声の大きさなどは改善点として職員が捉えている意見が出ています。保育士としてどのように子どもに接していくことが必要なのか、虐待に対する捉え方、羞恥心に配慮した環境設定など、日常の保育に当てはめると、改善すべき点があるのか、またはないのか、職員間で検証し、検討することが期待されます。
2	タイトル	保育課程に照らし合わせ、年間指導計画の期ごとの目標を明確にして日々の保育につなげていくことが期待されます
	内容	年間指導計画の内容は年間を通して、年齢に合わせた発達状態を示した子どもの姿に記載していますが、期ごとにどのようなねらいを持って保育を組み立てていくのが不明確となっています。各期ごとにどこまでを保育の目標にしているのかを明確にすることで、月案で取り組む活動内容なども連動性が生まれます。週案についても同様で、その活動がどのような意図で行われるのかにつながります。保育課程に照らし合わせて、保育方針に基づきどのようなねらいを持って保育を展開していくのか、改めて職員間で検討していくことが期待されます。
3	タイトル	「子ども・子育て支援新制度」の時代において地域の中で果たすべき役割を打ち出し、実現させていくことが期待されます
	内容	開設以来の長きにわたる経験の蓄積を生かし、「子ども・子育て支援新制度」の時代において地域の中で果たすべき役割を打ち出し、実現させていくことが期待されます。需要の多い一時支援事業を拡充できる体制の整備や、地域の子育てネットワークへの参画を通じた養育困難家庭支援などにおける実績を積み重ねていくことが期待されます。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもの自主性を尊重し、行事等子どもが主役で展開されています
	内容	日々の保育は、子どもたちの意見を尊重し、行事に繋げており、お店ごっこは、自分達でやりたい遊びや、イメージを話し合い子どもの意見を吸い上げています。幼児クラスが集まり、話し合いイメージを共有し製作に取り組みました。年長児の自動販売機・魚つり・ポーリング・輪投げ等・4歳は、レストラン風で食べ物づくり・3歳児はお化けのお面、空き箱で車づくり等で、製作に時間をかけ、当日は、売り手・買い手になり自動販売機では、年長児が中に入り、コインを入れるとのり巻きやジュースが出てきたりと一日中、園全体で楽しむ行事です。
2	タイトル	児童票は保護者とどのように子どもの成長を確認してきたかがわかる、子どもの成長記録となっています
	内容	子どもの成長していく姿は保育課程に示し、その姿を捉え保育することに取り組んでいます。園で作成している児童票は、「新入・進級の当初の様子」、「家庭訪問・個人面談内容」、「その他(体重、身長など)」が入園から卒園までの様子を全て記載できる様式となっています。保護者とどのような話をしながら子どもの成長を確認してきたかがよくわかります。さらに、3歳児までの児童票には発達に関する項目を分けて記載しており、保育、発達の経過を確認できるようにしています。児童票は子どもが歩んできた成長の記録となっています。
3	タイトル	職員一人ひとりの意向を把握して研修受講に役立てるとともに、丁寧な研修報告の共有に努めています
	内容	園長による職員との個別面談を実施して、職員一人ひとりの研修受講等に関する意向を把握して計画的な研修受講ができるように努めています。今年度から本人の希望に加えて、個人別に必要と思われる研修の受講を促すようにしており、件数も増えています。研修受講後は報告書の提出が義務付けられており、職員会議で報告が行われています。研修報告はどれも丁寧に記載がなされており、研修のポイントなどが良く理解できるとともに、職員の真剣さが伝わってくるものとなっています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	ふじみ保育園として求められる保育士像を明確にして、職員間で共有していくことが期待されます
	内容	現在実施している専門職としての自らを振り返るチェックなどに加えて、「ふじみ保育園に求められる保育士像」の明示し、職員間で共有していくことが課題といえます。ベテラン職員の経験や知識を若手に伝えたり、より良い園のあり方を検討していくためにも、ふじみ保育園の職員としての共通目標を示すことが望まれます。職員学習会を利用して議論を行ったり、中堅職員育成のための法人研修が実施されるなど、「求められる保育士像」を練り上げる取り組みも始まっていますので、今後の進展が期待されます。
2	タイトル	保護者及び職員についても園の取り組みを理解できるよう「伝わったか」を確認する方法を検討することが期待されます
	内容	園はがどのような方針で保育を行い、どのように取り組んでいるか、入園説明会や個人面談、おたより帳などを通して保護者に伝えていきます。保護者等から挙げられた要望などについても、園の広報誌や園内の掲示板にてその取り組みの報告がなされています。また、職員に対しても園として取り組むべき内容が職員会議等で伝えていますが、利用者調査、職員自己評価においてもその認知度、満足度は低く、改善の余地があります。どのように「伝わったか」を確認する方法を検討し、一体感のある保育が提供できるよう取り組むことが期待されます。
3	タイトル	虐待に対する捉え方、羞恥心に配慮した環境設定など、日常の保育場面にあてはめて職員間で検証、検討することが期待されます
	内容	子ども自身が羞恥心を生活を通して学んでいくことができるよう、着替えの順番などを伝えていきます。着替えの場所がテラスとなっており、目隠しが完全ではないことから外部から見えてしまう危険性があります。また、子どもに対する声かけや言葉遣い、声の大きさなどは改善点として職員が捉えている意見が出ています。保育士としてどのように子どもに接していく必要があるのか、虐待に対する捉え方、羞恥心に配慮した環境設定など、日常の保育に当てはめると、改善すべき点があるのか、またはないのか、職員間で検証し、検討することが期待されます。



No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもの成長に合わせたきめ細やかな保育の実践を目指して取り組んでいます
	内容	昨年度より保育課程からつながる、年間指導計画をより、園の保育の特徴に合った独自の計画を作成してこうと、職員から声があがり、全職員で見直しを継続して行っています。それぞれの年齢で成長していく子どもの姿を改めて捉え直し、幼児クラスの年間指導計画を年齢別と異年齢保育で整理していくことで、現状の保育の振り返りにもつながっています。子ども一人ひとりに対するきめ細かい保育の実践に近づくよう取り組んでいます。
2	タイトル	高齢者や地域住民との交流機会を積極的に設け、子どもの成長を共に見守れるよう取り組んでいます
	内容	高齢者施設との合築である当園では、施設内のデイサービスの利用者の方々と年中行事を一緒に実行する、日々の中での2歳児が遊びに出かけて行くなど、自然と世代間交流ができるメリットを活かした活動を行っています。さらに、夏祭りや七夕、クリスマス、運動会、新年の集いの際には、地域の方々をお誘いして交流を深める機会を設けています。地域の方々とともに子どもの成長を見守れるよう、積極的に取り組んでいます。
3	タイトル	避難訓練、災害対応等、非常時の安全確保に努めています
	内容	園では、毎月避難訓練を実施して、職員が適切な対応がとれるようにしています。引取り訓練も年に一度実施しており、園児・保護者に対しても非常時の対応について周知を図っているほか、災害時の連絡方法を確立しています。BCP計画としての「大災害も含めた防災マニュアル」を作成するとともに、3日分の食糧等を備蓄して非常時の備えをしています。消防計画についても初動訓練の結果を踏まえた見直しをしており、非常時の安全確保に努めています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	園の給食に対する共通理解を深め、豊かな食育への取り組みが実施されることが望めます
	内容	食育計画は作成されていますが、栄養士の産休等で食育への取り組みが滞っている状況があります。献立会議を行っていても、給食に反映されないことも多いようです。メニューのみならず、食器の選び、盛り付け、配膳方法、子どもが自主的に食事を取りやすい環境等確認が必要と推察されます。保育士の思い、保護者のニーズ、併設されているデイサービスとの兼ね合い、栄養士、調理師の思いなどをもう一度すり合わせて、「ほんちよう保育園の給食」のビジョンを打ち出していくことが望めます。
2	タイトル	保護者からの意見の吸い上げ方や、対応後の説明方法など、今後検討することが期待されます
	内容	保護者からあがってきた声については苦情連絡票を使用してすぐに職員会議等で検討するようになっていきます。また、連絡帳に記載されたことで気になることがあった場合は、クラス担当が主任に相談する流れにもなっています。しかし、要望なのか苦情なのかの判断は園としての基準が定まっていないので、苦情の扱いも一定していない状況があります。また、利用者調査において、不満・要望への対応への満足度は61%であり、意見の吸い上げ方や対応に対する説明方法についても改善の余地があります。今後の検討が期待されます。
3	タイトル	就業状況の把握を踏まえた労働環境改善について検討を進めることが期待されます
	内容	園では、「疲労蓄積度自己診断チェック」を用いた職員の就業状況やメンタルヘルス状況の把握と改善に努めています。ただ、今回の職員自己評価結果では、就業状況や労働環境に関する職員の不満が大きくなっていることが推察される結果となっています。今後、安全衛生委員会で業務内容の見直しを進めて、労働環境の改善につなげていくことを計画しているということですので、その進展が期待されます。